

第2章 流域及び河川の自然環境

2.1 流域の自然環境

旭川は、岡山県の中央部に位置し、中国山地の渓谷を流下する上流部、吉備高原の谷底平野を蛇行しながら流下する中流部、岡山平野など平地部を流下する下流部からなっている。

旭川上流部の一部は、大山隠岐国立公園（中国山地の脊梁部一帯）や湯原奥津県立公園（山岳高原）に、中流部の旭川ダムを中心とした地域は、吉備清流県立自然公園に、それぞれ指定され、多くの自然環境に恵まれており、動植物も多数生息・生育している。

植生は、上流部(北部山地)は、スギ・ヒノキ人工林、ミズナラ・コナラ等の広葉樹林が混在、一部にブナ林が残存する。中流部はアカマツ林の他、ツガ林やタブノキ林、コナラ、クヌギ、スギ・ヒノキ人工林が混在し、下流部においては、ヤナギ等からなる河畔林が形成され、干潟付近ではヨシ原が形成されている。

魚類は、上流部は清流に礫河床を好むアマゴ、カジカ、スナヤツメなどが、湯原ダムの止水環境には、コイ、ギンブナ等が生息する。中流部は、旭川ダムの直下流までアユやサツキマスが遡上し、コイ、フナ類等が生息している。下流部は、カネヒラ、アユ、ウナギ、メダカ等が、水際植生周辺にはオヤニラミが生息する。また、支川には国の天然記念物に指定されているアユモドキが確認されている。

哺乳類の生息状況は、上流部山地に広域的にホンシュウモモンガ、ムササビ等、局所的にツキノワグマ、ヤマネ、ニホンザル等が生息する。

その他、旭川源流部に、特別天然記念物のオオサンショウウオが広く生息し、昆虫類では、ムカシトンボやゲンジボタルが、両性類は、モリアオガエル、カジカガエル等が生息している。

鳥類は、上流部に、ヤマセミ等が、湯原湖に、カルガモやマガモ等のカモ類が確認されている。中流部は、カワガラスやヤマセミ、旭川ダム湛水域にヒドリガモ、マガモ等のカモ類が飛来する。下流部は、アオサギ等のサギ類やカワセミ等が生息している。

下流で分派する百間川には、カモ類やオオヨシキリなどが観察されている。



「岡山県現存植生図」(環境庁, 昭和 50 年発行)を編集

図-2.1.1 旭川流域の自然環境(現存植生)

2.2 河川の自然環境

(1) 上流部

源流から新庄川合流点までの上流部は、河床勾配が 1/200 ~ 1/400 と上流部としては比較的緩く、中国山地の山あいを蛇行しながら、途中、蒜山高原や湯原ダムの湛水域を経て流下する。湯原ダム直下の旭川河川敷には湯原温泉の露天風呂がある。大山隠岐国立公園、湯原奥津県立自然公園など、優れた景観と環境を形成している。

植生を見ると、上流部(北部山地)は、スギ・ヒノキの人工林が約 6 割、ミズナラ・コナラ等の広葉樹林が混在、一部にブナ林が残存する。

動物相を見ると、魚類はアマゴ、カジカ、スナヤツメ等が生息し、湯原ダムにコイやギンブナが生息する。両生類は、特別天然記念物のオオサンショウウオをはじめ、モリアオガエル、カジカガエル等が、昆虫類は、ムカシトンボ、ゲンジボタル等が生息する。鳥類は渓流性のヤマセミ等が、湯原湖にはカルガモやマガモ等のカモ類が生息する。哺乳類は、ホンシュウモモンガ、ムササビ等が上流部山地に広域に、ツキノワグマ、ヤマネ、ニホンザル等が局所的に生息する。



蒜山高原



渓流沿いの森林に生息し美しい声で鳴くカジカガエル



山地の渓流部に見られるヤマセミ



天然記念物のオオサンショウウオ



池、沼近くに生息する樹上性のモリアオガエル



川岸に植生がある平瀬に生息するゲンジボタル

(2) 中流部

新庄川合流点から旭川合同堰^{あさひがわごうどうぜき}までの中流部は、河床勾配が 1/500 程度で、吉備高原の谷底平野を流下し、途中の旭川ダム湛水域を除けば、瀬と淵が交互に現れる河川形態となっている。中流域の本川沿い大部分が吉備清流県立自然公園に指定されている。

植生を見ると、アカマツ林の他、ツガ林やタブノキ林や、コナラ、クヌギ、スギ・ヒノキ人工林が混在する。動物相を見ると、魚類は、旭川ダム下流では、アユ、サツキマスの遡上が確認されており、また、一部の支川では国内希少野生動植物種に指定されているスイゲンゼニタナゴが見られる。両生類は渓流にカジカガエル、谷あいの水田にトノサマガエル等が生息している。鳥類はカワガラスやヤマセミが、旭川ダムの湛水域にはヒドリガモ、マガモ等のカモ類が飛来するほか、周辺の林にはシジュウカラ、ヤマガラ等が見られる。



旭川ダム



主に水田に生息するトノサマガエル



冬鳥として飛来するヒドリガモ



なだらかな瀬を好むアユ

(3) 下流部

旭川合同堰から河口までの下流部は、河床勾配が 1/600 ~ 1/5,500 と緩勾配になっており、岡山平野を流下し、岡山市街地を貫流する。川幅は広く、ゆったりとした流れのなかにいくつもの砂州が形成されている。下流に潮止堰があり、河口まで約 8km 区間が感潮域となって、汽水域の生物の生息・生育の場が形成され、河川敷が広く利用されている。

植生を見ると、ヤナギ等からなる河畔林が形成され、干潟付近ではヨシ原が形成される。

動物相を見ると、魚類は、カネヒラ、アユ、ウナギ、メダカ等が生息する。河床が浮き石状態の瀬はアユが産卵場として利用している。また水際植生の周辺にはオヤニラミが生息している。鳥類は、アオサギ、カイツブリ、カワウ、オオヨシキリ等が見られ、湛水域ではオナガガモ、ユリカモメ等が休息、採餌地として利用している。また、航路維持を目的にオランダ人のムルデルが提案し、昭和初期に設置されたケレップ水制周辺には干潟とヨシ原が広がり、干潟にはヤマトシジミ等の貝類が生息し、夏季にはオオヨシキリが飛来するなど、多様な生物の生息環境となっている、その他、ヨシ原には陸上昆虫のヨドシロヘリハンミョウが見られ、湧水のあるワンドには、ゲンバイトンボやハグロトンボ等の水生昆虫類が見られる。また、旭川周辺の水域では、国内希少野生動植物種に指定されているスイゲンゼニタナゴやアユモドキが見られる。



岡山市中原付近



岡山城付近



旭川・百間川河口部



流れの少ないところを好む
メダカ



ヨシ原で見られるオオヨシキリ



水際植生の周辺に生息するオヤニラミ



ヨシ原に生息する
ヨドシロヘリハンミョウ



スイゲンゼニタナゴ

(4) 百間川

河口から約 12km 付近で分派する百間川は、下流域は水門で締め切られた広大な湛水池が形成され、上流域は緩流となっている。

植生を見ると、湿性にはヒシモドキ、ガガブタ、オニバス、タコノアシといった水生植物が広範囲に生育している。

動物相を見ると、魚類は、オイカワ、フナ類、タナゴ類、メダカ等流れの少ないところに生息する淡水魚が見られる。また、一部の支川には国の天然記念物に指定されているアユモドキが確認されている。鳥類は、アオサギ等のサギ類やカワセミ等が生息し、冬場にはマガモ、ヒドリガモ等のカモ類が観察されるほか、広大な開放水面をミサゴが採餌に利用している。また、河川敷周辺の草地にはオオヨシキリが飛来する。



国指定の天然記念物アユモドキ



止水域に生育するオニバス



湿性地に生育するヒシモドキ



魚食性のミサゴ



冬鳥として飛来するマガモ

(5) 注目すべき生物種

旭川流域における、河川水辺の国勢調査や文献調査において生息が確認された動植物のうち、天然記念物や学術文献等により希少性の指摘を受けている種を重要な種として選定した。重要な動植物の選定根拠を表-2.2.1 に示す。

既存資料による動植物調査結果から選定した重要な種の一覧を分類ごとに表-2.2.2～表-2.2.10 に示す。

表-2.2.1 重要な種選定根拠

資料	分類	選定内容			
文化財保護法	天然記念物	文部科学大臣によって指定された重要な記念物（動物（生息地、繁殖地及び渡来地を含む）、植物（自生地を含む）及び地質鉱物（特異な現象の生じている土地を含む）で我が国にとって学術上価値の高いもの）。 なお、県や市町村の条例により指定される天然記念物も同様の扱いとする。			
種の保存法	国内希少野生動植物	本邦における生息・生育状況が人為の影響により存続に支障を来す事情が生じている種で以下のいずれかに該当するもの（亜種又は変種がある種は、その亜種又は変種とする）。 ・ 個体数が著しく少ないか、又は著しく減少しつつある種 ・ 全国の分布域の相当部分で生息地等が消滅しつつある種 ・ 分布域が限定されており、かつ、生息地等の生息・生育環境の悪化又は生息地等における過度の捕獲若しくは採取により、その存続に支障を来す事情がある種			
	国際希少野生動植物	国際的に協力して種の保存を図ることとされている絶滅のおそれのある野生動植物の種（国内希少野生動植物種を除く。）であって、政令で定めるもの			
改訂・日本 R.D.B	絶滅（EX）	すでに絶滅したと考えられる種			
	野生絶滅（EW）	飼育・栽培下でのみ存続している種			
	絶滅危惧	絶滅危惧類（CR+EN）	絶滅の危機に瀕している種	絶滅危惧 A 類（CR）	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高い種
				絶滅危惧 B 類（EN）	A 類ほどではないが、近い将来における絶滅の危険性が高い種
		絶滅危惧類（VU）	現在の状態をもたらしている圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧類」のランクに移行することが確実と考えられるもの		
	準絶滅危惧（NT）	現時点では絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する可能性のある種			
情報不足（DD）	評価するだけの情報が不足している種				
岡山県 R.D.B	絶滅種	すでに絶滅したと考えられる種			
	野生絶滅種	飼育・栽培下でのみ存続している種			
	絶滅危惧種	現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用するならば、その存続が困難になるもの			
	危急種	現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用するならば、近い将来「絶滅危惧種」のランクに移行することが確実と考えられるもの			
	準危急種	現在のところ、「絶滅危惧種」にも「危急種」にも該当しないが、生息・生育条件の変化によって容易に上位のランクに移行するような要素（脆弱性）を有するもの			
	情報不足	評価するだけの情報が不足している種			
	希少種	種として元々の個体数を考慮する種			
	留意種	絶滅のおそれはないが、岡山県として記録しておく必要があると考えられる種			
選定根拠となる資料					
<ul style="list-style-type: none"> 文化財保護法：「文化財保護法」（1950、法律 214） 種の保存法：「絶滅の恐れのある野生動植物の種の保存に関する法律」（平成 5 年、法律第七五号） 改訂・日本 R.D.B：「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - 」 1 哺乳類（2002、環境省） 2 鳥類（2002、環境省） 3 両生類・爬虫類（2000、環境庁） 4 汽水・淡水魚類（2003、環境省） 5 昆虫類（2006、環境省） 6 陸・淡水産貝類（2005、環境省）、7 クモ型類・甲殻類等（2006、環境省） 8 植物（維管束植物）（2000、環境庁） 岡山県 R.D.B：「岡山県版レッドデータブック 絶滅のおそれのある野生生物」（2003、岡山県） 					

(6) 旭川における重要な種

旭川水系では、絶滅の危機にある生物が確認されている。特に、オオサンショウウオは、流域内の支川の各所で生息している。また、都市化の進んでいる下流部においても、重要なタナゴ類が生息しており、河川環境の保全は重要である。

環境省や岡山県では、絶滅の危機に瀕している動植物をレッドデータブックとしてとりまとめ、保護の基礎資料としている。さらに種の保存法等を加えた旭川の生息や自生が確認されている特定種は、以下のとおりである。

表-2.2.2 重要な種【哺乳類】

和名	旭川流域での確認情報				岡山県 カテゴリー	環境省 カテゴリー	文化財 保護法	種の 保存法
	文献のみ	河川水辺の国勢調査						
		1992	1997	2002				
ニホンザル					留意種			
テン					留意種			
種数	1		1		2			

表-2.2.3 重要な種【鳥類】

和名	旭川流域での確認情報				岡山県 カテゴリー	環境省 カテゴリー	文化財 保護法	種の 保存法
	文献のみ	河川水辺の国勢調査						
		1994	1999	2004				
サンカノゴイ					情報不足	絶滅危惧IB類		
ヨシゴイ					準危急種			
チュウサギ					絶滅危惧種	準絶滅危惧		
クロトキ						情報不足		
マガン					情報不足	準絶滅危惧	国天	
コハクチョウ					希少種			
オシドリ					希少種			
トモエガモ					絶滅危惧種	絶滅危惧 類		
コウライアイサ					情報不足	情報不足		国際希少
ミサコ					絶滅危惧種	準絶滅危惧		
ハチクマ					絶滅危惧種	準絶滅危惧		
オオタカ					絶滅危惧種	絶滅危惧 類		国内希少
ハイタカ					絶滅危惧種	準絶滅危惧		
ノスリ					希少種			
サシバ					危急種			
ハイイロチュウヒ					希少種			
チュウヒ					絶滅危惧種	絶滅危惧 類		
ハヤブサ					絶滅危惧種	絶滅危惧 類		国内希少・国際希少
チョウゲンボウ					準危急種			
タンチョウ					絶滅危惧種	絶滅危惧 類	国特	国内希少
ナベツル					絶滅危惧種	絶滅危惧 類		国際希少
クイナ					希少種			
ヒクイナ					希少種			
タマシギ					準危急種			
アカアシシギ					希少種	絶滅危惧 類		
ホウロクシギ					絶滅危惧種	絶滅危惧 類		
オオジシギ					絶滅危惧種	準絶滅危惧		
セイタカシギ					絶滅危惧種	絶滅危惧IB類		
ツバメチドリ					絶滅危惧種	絶滅危惧 類		
ズグロカモメ					絶滅危惧種	絶滅危惧 類		
コアシサシ					絶滅危惧種	絶滅危惧 類		国際希少
ジュウイチ					希少種			
ツツドリ					希少種			
コミミズク					危急種			
アオバスク					危急種			
フクロウ					絶滅危惧種			
ヨタカ					危急種			
ヤマセミ					準危急種			
アカショウビン					準危急種			
カワセミ					留意種			
ブッポウソウ					絶滅危惧種	絶滅危惧 類		
アオゲラ					希少種			
アカゲラ					希少種			
アカモズ					希少種	準絶滅危惧		
トラツグミ					希少種			
コヨシキリ					希少種			
オオヨシキリ					希少種			
キビタキ					希少種			
オオルリ					希少種			
サンコウチョウ					準危急種			
ツリスガラ					希少種			
コガラ					希少種			
コジュリン					絶滅危惧種	絶滅危惧 類		
ホオアカ					希少種			
ノジコ					絶滅危惧種	準絶滅危惧		
オオジュリン					希少種			
種数	27	9	19	19	55	25	2	6

表-2.2.4 重要な種【爬虫類】

和名	旭川流域での確認情報				岡山県 カテゴリー	環境省 カテゴリー	文化財 保護法	種の 保存法
	文献のみ	河川水辺の国勢調査						
		1992	1997	2002				
イシガメ					危急種			
スッポン					希少種	情報不足		
タワヤモリ					希少種			
種数	3				3	1		

表-2.2.5 重要な種【両生類】

和名	旭川流域での確認情報				岡山県 カテゴリー	環境省 カテゴリー	文化財 保護法	種の 保存法
	文献のみ	河川水辺の国勢調査						
		1992	1997	2002				
オオサンショウウオ					絶滅危惧種	準絶滅危惧	国特	国際希少
カスミサンショウウオ					危急種			
イモリ					準危急種			
トノサマガエル					準危急種			
シュレーゲルアオガエル					留意種			
カジカガエル					危急種			
種数	4	1	1	2	6	1	1	1

表-2.2.6 重要な種【魚介類】

和名	旭川流域での確認情報				岡山県 カテゴリー	環境省 カテゴリー	文化財 保護法	種の 保存法
	文献のみ	河川水辺の国勢調査						
		1995	2000	2005				
スナヤツメ					危急種	絶滅危惧 類		
シロヒレタビラ					危急種			
カネヒラ					準危急種			
イチモンジタナゴ					危急種	絶滅危惧IB類		
ニッポンバラタナゴ					危急種	絶滅危惧IA類		
スイゲンゼニタナゴ					絶滅危惧種	絶滅危惧IA類		国内希少
カワバタモロコ					危急種	絶滅危惧IB類		
ゼゼラ					希少種			
ツチフキ					危急種			
アユモドキ					絶滅危惧種	絶滅危惧IA類	国天	国内希少
スジシマドジョウ小型種山陽型					危急種	絶滅危惧IB類		
ホトケドジョウ						絶滅危惧IB類		
アカザ					危急種	絶滅危惧 類		
シラウオ					準危急種			
アマゴ					留意種			
メダカ					危急種	絶滅危惧 類		
カジカ					危急種			
オヤニラミ					危急種	準絶滅危惧		
シロウオ					準危急種	準絶滅危惧		
カワアナゴ					希少種			
トビハゼ					準危急種			
オオヨシノボリ					準危急種			
種数	11	6	10	8	21	12	1	2

表-2.2.7 重要な種【エビ・カニ・貝類】

和名	旭川流域での確認情報				岡山県 カテゴリー	環境省 カテゴリー	文化財 保護法	種の 保存法
	文献のみ	河川水辺の国勢調査						
		1995	2000	2005				
ヒロクチカノコガイ					希少種			
オオタニシ					留意種			
クロダカウニナ					留意種	準絶滅危惧		
マメタニシ						準絶滅危惧		
モノアラガイ						準絶滅危惧		
マツカサガイ					留意種	準絶滅危惧		
トンガリササノハガイ						準絶滅危惧		
ヤマトシジミ					留意種			
マシジミ					準危急種			
ヌマエビ					留意種			
アリアケモドキ					希少種			
オバエボシガイ					留意種	絶滅危惧 類		
種数	2	8	3	5	9	6		

表-2.2.8 重要な種【底生動物】

和名	旭川流域での確認情報				岡山県 カテゴリー	環境省 カテゴリー	文化財 保護法	種の 保存法
	文献のみ	河川水辺の国勢調査						
		1995	2000	2005				
ジーカイメン					留意種			
ヒロクチカノコガイ					希少種			
マルタニシ					絶滅危惧種	準絶滅危惧		
オオタニシ					留意種			
クロダカウニナ					留意種	準絶滅危惧		
フトヘナタリガイ					留意種			
マメタニシ						準絶滅危惧		
モノアラガイ						準絶滅危惧		
カラスガイ						準絶滅危惧		
オバエボシガイ					留意種	絶滅危惧 類		
マツカサガイ					留意種	準絶滅危惧		
トンガリササノハガイ						準絶滅危惧		
カタハガイ					留意種	準絶滅危惧		
ウネナシトマヤガイ					留意種			
ヤマトシジミ					留意種			
マシジミ					準危急種			
ヌマエビ					留意種			
アリアケモドキ					希少種			
チノマダラカゲロウ					留意種			
ウエノヒラタカゲロウ					留意種			
ゲンバイトンボ					準危急種	絶滅危惧 類		
ハグロトンボ					留意種			
オオヤマカワゲラ					留意種			
コオイムシ					準危急種	準絶滅危惧		
コバントビケラ					留意種			
ピワシエダトビケラ					情報不足	絶滅危惧 類		
ニンギョウトビケラ					留意種			
キバネキバナガミズギワゴミムシ					準危急種			
キバナガミズギワゴミムシ					準危急種			
オカミミガイ					危急種			
ヒトボシクラカゲロウ					留意種			
ミスカゲロウ					留意種			
ムツハアリアケガニ					危急種			
ヨコミゾドロムシ					情報不足	絶滅危惧 類		
種数	12	16	9	12	30	13		

表-2.2.9 重要な種【陸上昆虫類】

和名	旭川流域での確認情報				岡山県 カテゴリー	環境省 カテゴリー	文化財 保護法	種の 保存法
	文献のみ	河川水辺の国勢調査						
		1993	1998	2003				
コガネグモ					留意種			
ゲンバイトンボ					準危急種	絶滅危惧 類		
ハグロトンボ					留意種			
アオハタトンボ					危急種			
キイロヤマトンボ					準危急種	絶滅危惧 類		
ナニワトンボ					準危急種	絶滅危惧 類		
カワラバタ					絶滅危惧種			
エサキアメンボ					希少種	準絶滅危惧		
コオイムシ					準危急種	準絶滅危惧		
ニンギョウトビケラ					留意種			
オオムラサキ					希少種	準絶滅危惧		
ツマグロキチョウ					留意種	絶滅危惧 類		
キバネキバナガミズギワゴミムシ					準危急種			
キバナガミズギワゴミムシ					準危急種			
ヨドシロヘリハンミョウ					絶滅危惧種	絶滅危惧 類		
コガタノゲンゴロウ					絶滅危惧種	絶滅危惧 I類		
モンキマメゲンゴロウ					留意種			
ヨコミゾドロムシ					情報不足	絶滅危惧 I類		
キアシハナダカバチモドキ					留意種	情報不足		
キバラハキリバチ					準危急種			
種数	8	7	12	8	20	11		

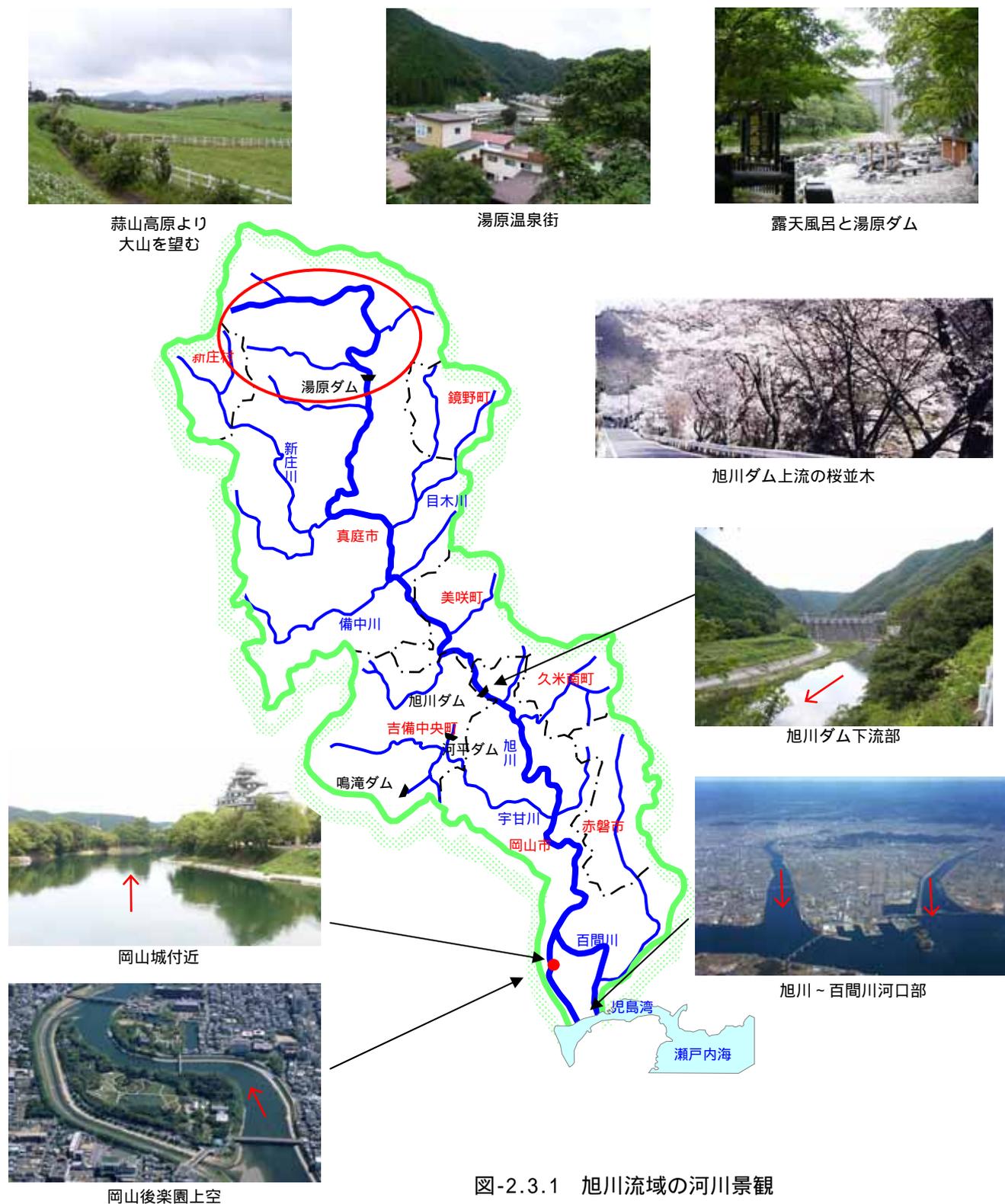
表-2.2.10 重要な種【植物】

和名	旭川流域での確認情報				岡山県 カテゴリー	環境省 カテゴリー	文化財 保護法	種の 保存法
	文献のみ	河川水辺の国勢調査						
		1996	2001	2006				
ミスワラビ					準危急種			
デンジソウ					危急種	絶滅危惧 類		
サンショウモ					準危急種	絶滅危惧 類		
オオアカウキクサ					危急種	絶滅危惧 類		
コゴメヤナキ					準危急種			
ウナギツカミ					準危急種			
サクラタデ					準危急種			
ホソバノハマアカザ					準危急種			
ヒキノカサ					準危急種	絶滅危惧 類		
オトコゼリ					準危急種			
オニバス					危急種	絶滅危惧 類		
ハマヒサカキ					野生絶滅種			
コイヌガラシ						準絶滅危惧		
タコノアシ					準危急種	絶滅危惧 類		
カワラサイコ					準危急種			
ユキヤナギ					準危急種			
ミスマツバ						絶滅危惧 類		
ヒメビシ						絶滅危惧 類		
ハイノキ					希少種			
ヒメシロアサザ					準危急種	絶滅危惧 類		
ガガブタ					準危急種	絶滅危惧 類		
ハナムグラ						絶滅危惧IB類		
マメダオシ					危急種			
ミソコウジュ						準絶滅危惧		
イヌゴマ					準危急種			
オオアブノメ					準危急種	絶滅危惧 類		
コキクモ					準危急種	絶滅危惧 類		
イヌノフグリ					留意種	絶滅危惧 類		
カワヂシャ						準絶滅危惧		
ヒシモドキ					絶滅危惧種	絶滅危惧IA類		
ハマウツボ					危急種			
ノタヌキモ					準危急種			
タヌキモ						絶滅危惧 類		
トウオオバコ					準危急種			
キキョウ						絶滅危惧 類		
ウラギク					準危急種	絶滅危惧 類		
フジバカマ					準危急種	絶滅危惧 類		
ホソバニガナ					危急種	絶滅危惧IB類		
オナモミ					情報不足			
アギナシ					準危急種	準絶滅危惧		
ヤナギスブタ					危急種			
トチカガミ					準危急種			
ミスオオバコ					準危急種			
イトモ					危急種	絶滅危惧 類		
サガミトリゲモ					危急種	絶滅危惧IB類		
イトトリゲモ					危急種	絶滅危惧IB類		
イハラモ					絶滅危惧種			
トリゲモ					情報不足	絶滅危惧IB類		
ミスアオイ					絶滅危惧種	絶滅危惧 類		
ホシクサ					準危急種			
ミスタカモジ					絶滅危惧種	絶滅危惧 類		
ヒメコヌカグサ						準絶滅危惧		
コゴメカゼクサ					準危急種			
コガマ					準危急種			
シラン					危急種	準絶滅危惧		
種数	21	24	22	8	46	32		

2.3 特徴的な河川景観や文化財等

旭川流域は、大山隠岐国立公園、湯原奥津県立自然公園、吉備清流県立自然公園といった美しい自然景観に恵まれ、上流部の湯原温泉街と湯原ダム、下流部の岡山城と日本三名園の一つ岡山後楽園等が代表的な河川景観である。

また、中上流部では古くから備前、美作を結ぶ舟運の役割を果たしてきた高瀬舟、たたら製鉄などの歴史があり、下流部では岡山城、岡山後楽園、ケレップ水制などが残っている。





八重岩

県北部では古くから「たたら製鉄」が盛んであった。たたら製鉄では、「鉄穴流し」により、大量のマサ土から砂鉄を取り出していた。佐波良神社の北にある八重岩は、大量のマサ土を掘り出したため、土中から現れたものである。



足ヶ瀬甌穴群

飛び石に似て水中に立った石に上が凹んで手水鉢の形になったものが散在。急流の渦が砂を含み長年月流れ当たることにより閃緑岩が白の穴状に侵蝕されたもので、「甌穴」の名で呼ばれる。



高瀬舟発着場跡

川を利用した輸送手段として栄えた高瀬舟。浅い川でも通れるように舟の底を平たくしてある。



高瀬舟の積荷は、上り船は生活必要物資一切、畳表、塩、砂糖、石油など、下り舟は米、大豆、木炭など土地産のあらゆる産物であった。

元禄2年(1689)には約50隻、明治時代の最盛期には数百隻の船が往来していたと考えられている。

勝山は旭川最上流の高瀬舟発着場として賑わい、現在も河岸に発着場跡の石畳が残っている。



岡山城

天正元年(1573)、宇喜多直家が築城。天守が下見板張りの黒造りのため、烏城ともいわれる。



岡山後楽園

岡山城と対面する中州には日本三名園の一つである岡山後楽園がある。



百間川陸間門跡

百間川を横断するため、堤防を切って作られた通路。



ケレップ水制

大型船舶航の航路維持のため、オランダ人の技術者ムルデルによりT字型の「ケレップ水制」が考案された。干潟として生物の多様性に寄与している。

図-2.3.2 旭川流域の史跡等位置図

2.4 自然公園等の指定状況

(1) 自然公園及び自然環境保全地域

旭川上流部は良好な自然環境に恵まれ、中国山地の脊梁部^{せきりょう}一帯が大山隠岐国立公園に指定されている。また、湯原ダムを中心とした旭川上流の山岳高原が湯原奥津県立自然公園に、旭川中流域の旭川ダムを中心とした地域が吉備清流県立自然公園に指定されている。

その他、岡山県自然保護条例による郷土自然保護地域が 11 箇所指定されている。

1) 大山隠岐国立公園

昭和 11(1936)年に指定された、山陰地方に位置し、中国山地の最高峰大山^{だいせん}(1,709m)から蒜山^{ひるぜん}までの火山を中心とした山岳・高原景観からなる一帯、海食が著しい外海多島海景観の島前^{とうぜん}・島後^{とうご}の隠岐島、隆起・沈降海岸景観の島根半島の海岸部及びトロイデ火山と牧野景観からなる三瓶山^{さんべさん}一帯の 4 つの地域からなる公園である。

岡山県内の公園区域は、鳥取県境に連なる蒜山三座と山麓部に広がる壮大なスロープの蒜山高原、そして三平山、朝鍋鷲ヶ山～毛無山に至る一帯で、蒜山一帯には、ナラ、シデ、ブナなどの自然林やシラカバ林が広がりヒルゼンスゲ、コケモモ、イワカガミなどの高山植物も生育している。さらに名連川、湯船川などには、特別天然記念物のオオサンショウウオが生息している。また、スキー場、自転車道、国民休暇村などが整備されている。

2) 湯原奥津県立自然公園

昭和 45 年 5 月 1 日指定。旭川上流の湯原湖^{ゆばらこ}を中心とする一帯と、吉井川上流の山岳高原を含む地域である。

旭川、吉井川は、ともに北部県境に水源をもち、中国山地を流下し、奥津溪谷、神庭^{かみぼ}の滝など美しい溪谷や滝を生み出している。湯原温泉、奥津温泉などの温泉郷もあり、付近には広葉樹林も多く、四季を美しく彩っている。また、津黒高原^{つぐろ}の一角にネイチャーセンターや自然観察路などの施設も整備されている。

3) 吉備清流県立自然公園

昭和 58 年 3 月 29 日指定。県中央部旭川水系に沿って帯状に広がる地域で、吉備の山並みから流れ出る清流が優れた自然美を育てた、個性あふれる郷土景観にあふれている。

4) 郷土自然保護地域

岡山県自然保護条例により、郷土自然保護地域が 11 箇所指定されている。

表-2.4.1 旭川流域の郷土自然保護地域

名 称	所 在 地	面積 (ha)	指定年月日
化気地域	加賀郡吉備中央町案田、上田東	24.07	昭和 49 年 12 月 18 日
布都美地域	赤磐市石上	4.60	昭和 50 年 5 月 20 日
幻住寺地域	久米郡美咲町北	2.50	昭和 50 年 5 月 20 日
三樹山地域	御津郡建部町下神目	13.14	昭和 51 年 3 月 30 日
天福寺地域	加賀郡吉備中央町豊野	17.64	昭和 51 年 3 月 30 日
木山地域	真庭市木山	21.70	昭和 55 年 3 月 28 日
仏教寺地域	久米郡久米南町仏教寺	2.50	昭和 57 年 3 月 19 日
高岡神社地域	真庭市上中津井	3.11	昭和 60 年 3 月 19 日
東湿原地域	真庭市蒜山下長田	2.00	昭和 61 年 3 月 28 日
天狗の森地域	真庭市櫃ヶ山	6.54	平成 2 年 3 月 31 日
津黒地域	真庭市蒜山下和	10.26	平成 13 年 3 月 30 日

出典：岡山県自然環境課 HP データ

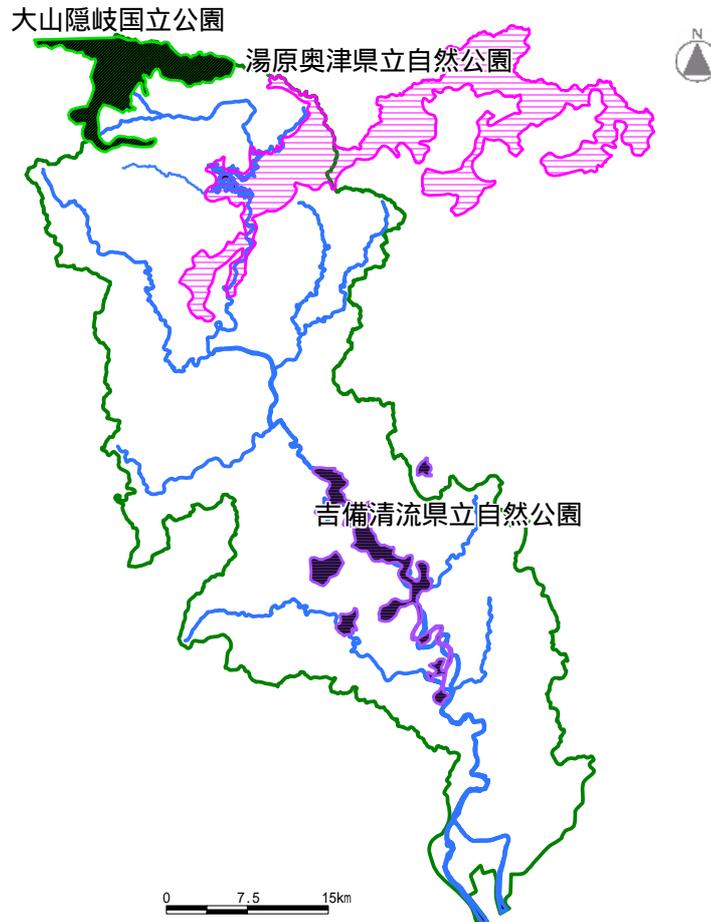


図-2.4.1 自然公園位置図

(2) 鳥獣保護区

「鳥獣保護及狩猟ニ関スル法律」に基づき鳥獣保護区等に指定されている区域は、上流域を中心に鳥獣保護区 19 ヶ所及び銃猟禁止区域 16 ヶ所にのぼる。

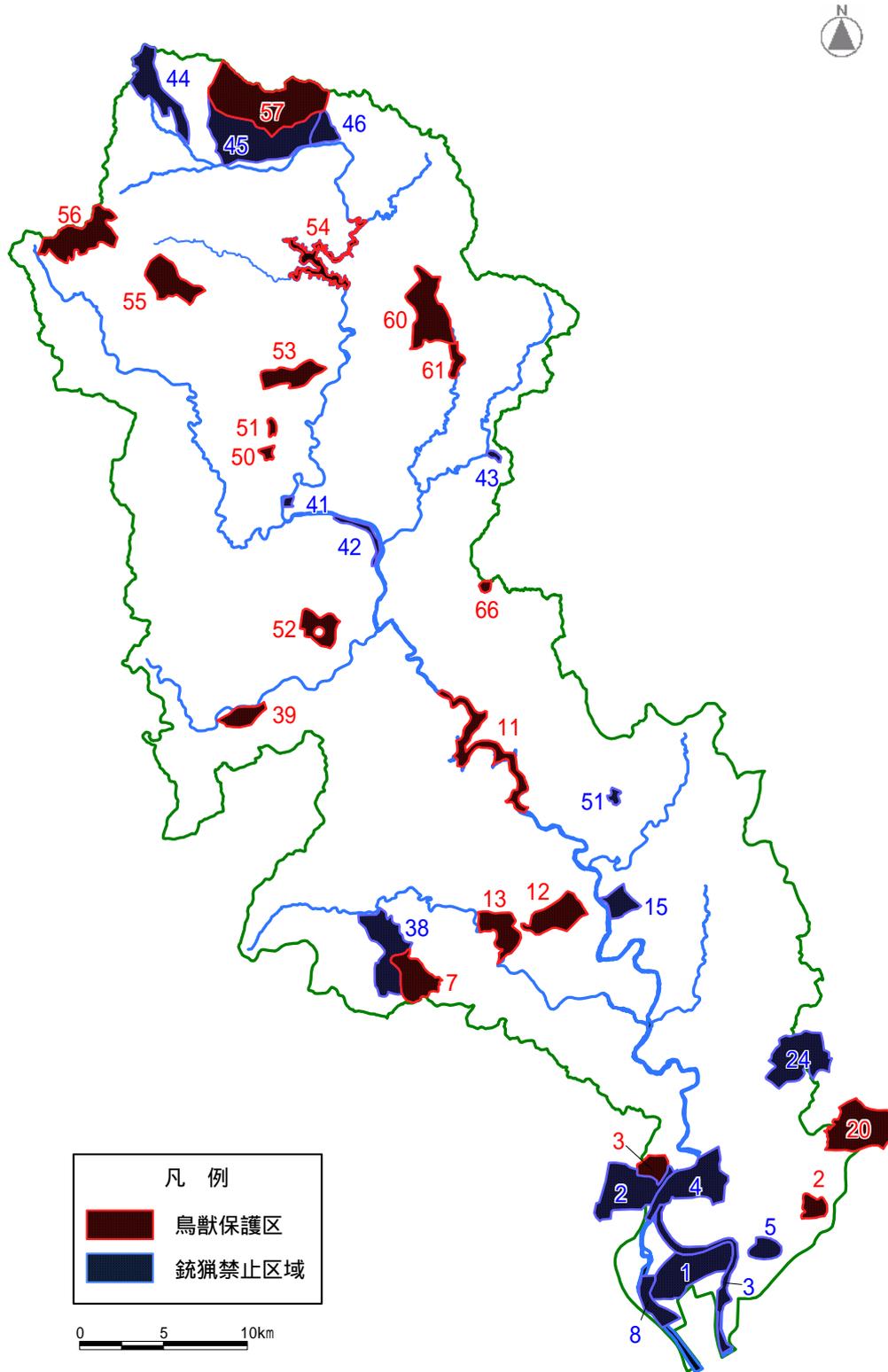


図-2.4.2 鳥獣保護区等位置図

表-2.4.2(1) 鳥獣保護区一覧

番号	名 称	所 在 地	面積(ha)	特別保護地区 面積 (ha)
2	三 徳 鳥獣保護区	岡山市	194	
3	笠井山 "	岡山市	220	
7	吉備高原 "	吉備中央町	655	
11	旭川湖 "	真庭市、岡山市、吉備中央町、美咲町	360	
12	たけべの森 "	岡山市	600	
13	宇甘溪 "	岡山市、吉備中央町	424	
20	三谷山 "	岡山市	980	
39	飯ノ山 "	真庭市	294	
50	神庭の滝自然公園 "	真庭市	45	
51	勝山美しい森 "	真庭市	56	
52	木 山 "	真庭市	316	30
53	櫃ヶ仙 "	真庭市	450	
54	湯原湖 "	真庭市	454	
55	鉄 山 "	真庭市	583	
56	毛無山 "	新庄村	950	187
57	蒜山国立公園 "	真庭市	1,400	
60	霰 山 "	鏡野町	832	
61	富西谷 "	鏡野町	55	
66	幻住寺 "	美咲町	48	

出典：「岡山県鳥獣保護区等位置図」（岡山県生活環境部自然環境課、平成 17 年度）

表-2.4.2(2) 銃猟禁止区域一覧

番号	名 称	所 在 地	面積(ha)
1	操 山銃猟禁止区域	岡山市	1,040
2	半田山 "	岡山市	1,000
3	百間川 "	岡山市	370
4	竜ノ口 "	岡山市	1,035
5	芥子山 "	岡山市	185
8	旭 川 "	岡山市	226
15	建 部 "	岡山市	270
24	山陽・可真 "	赤磐市	985
38	吉 川 "	吉備中央町	828
41	勝山城 "	真庭市	58
42	旭川中流 "	真庭市	95
43	栄進牧場 "	真庭市	40
44	蒜山大山スカイライン "	真庭市	650
45	蒜山高原 "	真庭市	2,176
46	花 園 "	真庭市	274
51	久米南美しい森 "	久米南町	60

出典：「岡山県鳥獣保護区等位置図」（岡山県生活環境部自然環境課、平成 17 年度）